

東京都世田谷区在住の夫妻の生活時間と生活様式 -1990年生活時間調査から-

第4報 場所別・一緒にいた人別にみた夫妻の生活時間

○昭和女大短大 瀬沼頼子 天野寛子 同女文研 伊藤セツ 同短大 森ます美  
日本女大 天野晴子 昭和女大(院) 堀内かおる 東海大(院) 井野上眞弓

目的：人間が家族の一員として、どのような場所で誰と一緒に過ごすかは、人間の発達、さらには老後生活の充実に大きな影響を及ぼしている。また、夫と妻が、どこで誰と一緒に過ごすかは家庭責任の共同化、家庭生活における男女平等のあり方を規定する重要な要因である。こうした課題を明らかにする目的で、本報では、都市勤労者夫妻の平日・土曜・休日の生活時間・生活行動圏(場所別・一緒にいた人別)を妻無職、妻パート、妻常勤別に分析・考察した。

方法：調査方法、調査対象者の特徴は第1報で報告した通りである。本報では、平日の夫妻の1日の生活時間を場所別に捉え、妻の勤務形態別・曜日別に生活行動の分析を行った。

結果：平日の妻無職夫妻について、在宅時間の割合(在宅率)をみると夫は約52%、妻は82%である。このうち睡眠の時間を除いた起床在宅時間比率は、妻が平日・土曜・休日共に50%前後であるのに対し、夫の場合には平日19%、土曜30%、休日46%と増加していく。夫の職場外ですごす生活時間のうち、夫妻が共に過ごす時間が最も長いのは、自宅内の寝室や夫妻の部屋である。加えて妻の場合は、トイレ・風呂・洗面所、台所等の家事労働の場での時間が長く、リビングルームでの時間も長い。夫には自宅の近辺や近隣の家、知人・友人の家等で過ごす時間は平日ほとんどなく、付き合いは妻任せの状況がうかがわれる。妻パート・妻常勤夫妻についても合わせて報告する。